ぶらりわが街宮沢界隈

(28)近世行政区画の変遷　－11－　もしかして昭島は立川と合併？

○　拝島村の分離一明治22年（1989）市域九ヵ村組合村結成から、13年後の明治35年（1902）に拝島村の分離独立問題が起こった。その原因は、必ずしも明確ではないが、直接の原因は、この頃全国に大流行し、多くの死亡者を出した赤痢（せきり）病による、衛生費負担の確執（かくしつ）であった。そのための出費は村財政にとって大きな負担であった、とりわけ拝島村での罹病（りびょう）患者が多く、他の八ヵ村は拝島村を除外して、独立村制を施行とする動きを見せ始めた。そうした状況下、むしろ拝島村から分離独立すべきとの声が高まり、同年4月1日正式に分離独立し、八ヵ村（郷地・福島・築地・中神・宮沢・大神・上川原・田中）は、そのまま組合村として存続した。

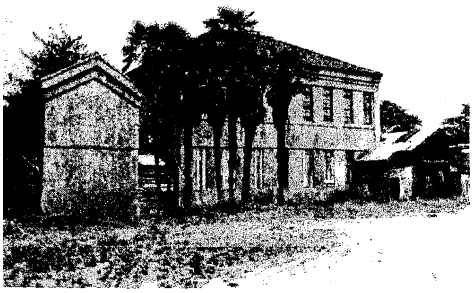
○　昭和村ができる－組合村という組織は、一つの村としての性格が薄くまとまりがないもので、それぞれが独自性の強いものでした。村運営の上からも、組合村とそれぞれの村の二重の組織は不便なものでした。一つの村に統合しようという動きはあったものの、長年培（つちか）われてきた各村の独立心が強く、それぞれの利害もあってなかなか統合できないまま、昭和の時代まで続いてきました。村民の中には、何とかして村ごとの閉鎖性を乗り越え、一つの村にしょうとする人々の働きもあって、昭和3年（1928）1月1日、八ヵ村組合村の各村が、江戸時代より続く歴史の枠を抜け出して、昭和村としてまとまりました。

○　昭和町ができる。立川町と合併？－大正11年（1922）陸軍立川飛行場完成から相次ぐ関連施設・工場が建設され、さらに昭和12年（1937）昭和飛行機工業が設立され人口が著しく増え軍需産業都市として村勢が伸張に向かうようになり、（昭和10年（1935）と16年（1941）との昭和村での比較、人口は約3倍、所帯数約3.6倍）村でも町制移行の企図が起こってきた。15年（1940）6月、立川町は隣接町村を合併する市制施行を計画し、昭和村も勧誘を受けた、しかし、独自の町制実施の道を選び、昭和16年（1941）1月1日、昭和町を施行した。

・恵日庵（えにちあん）（中神町2－31－15）－自治行政のおこり

通称「中神の観音堂」臨済宗建長寺派智勝山「福巌寺（ふくごんじ）」（中神町1－3－3）の境外仏堂で聖観音菩薩（紀州の蜂須賀家から拝領）を本尊とする。開創は不明ですが、現在の建物（＊昭和63年（1988）11月修復）は、文化2年（1805）中神村の豪商八代中野久次郎が再建寄進したもので、かつては、尼僧が在住したことがあるが、おおかた老僧の隠居所でした。戦前は、毎年7月17日に縁日が開かれ大変賑わっていた。また、立川村を含む十ヵ村連合村の戸長役場として利用された。昭和3年（1928）に昭和村が誕生し、役場の新庁舎が、その南の隣接地に（現・シルバー人材センター）昭和4年（1929）建設され以後、村及び町そして、昭和29年（1954）に市制が施行され、昭和32年（1957）市役所新庁舎ができるまで、行政事務や議会などが行われ、昭島の行政の中心としてその役割を果たしていた。

記　　防犯宮沢支部　西山　禎一



写真左より恵日庵、拝島村役場（明治14年）昭島市民秘蔵写真集より、昭和町役場（1年）昭島市民秘蔵写真集より